

第6回 e-ICON 世界大会 参加レポート

東京都立小石川中等教育学校 佐藤圭一郎

慶應義塾湘南藤沢高等部 福崎奨

◎日本での事前の準備・活動について

この e-ICON 世界大会は、教育に役立つアプリケーション（Android 用）を制作する大会です。韓国の生徒2名と、APEC(アジア太平洋経済協力)参加国から招待された生徒2名がチームを組み、活動を行います。私たち2人も、韓国の生徒で2人とチームを組み、アプリケーション制作をすることとなりました。

まず、私たちの参加への流れを説明します。最初に、制作するコンテンツの案を、2人で相談しながら書きました。その書類と旅券のコピー等を、先生方・JAPIAS 事務局を通して e-ICON の事務局に送りました。書類の情報をもとに、e-ICON 事務局で韓国の生徒とのマッチングが行われた結果、私たちはチーム L に決定しました。

チームの決定後、Team Blog が開設され、韓国のメンバーとの交流や話し合いが始まりました。しかし、Team Blog はリアルタイムで情報が伝わりにくいという欠点があったため、LINE を用いた話し合いに移行しました。LINE 上で、制作するアプリケーションの方向性について韓国のメンバーと意見を交換し、PDP（企画書）にまとめ、提出しました。

上記の活動が終わったら、いよいよ出発ですが、来年この大会に参加する方へのアドバイスとして、必要と思われる、この大会特有の持ち物を以下に挙げておきます。

- ・変換プラグ（無いと電化製品が動きません）
- ・開発用の機器（アプリケーション制作に使用するパソコンなど。現地には用意がありません。）
- ・テスト用の Android 機器（あれば役に立ちます）
- ・動画撮影機器（アプリケーションの PV を制作するので、役立ちます）
- ・マウス（1日中作業をするので、あると楽です。）
- ・サンダル（あれば施設内の移動がグンと楽になります）
- ・電子辞書

◎韓国での制作活動について

日程ごとに、出来事および制作の進捗状況等を、画像を交えて紹介します。

【8月18日（木）】

この日は、韓国への渡航日でした。

成田空港に集合し、それから大韓航空（Korean Air）の釜山行きに搭乗しました。約2時間10分の空の旅を経て釜山空港に到着しました。航空券は、渡航前に e-ICON の事務局が e-Ticket で私たちに送っていただきました。



釜山空港で、e-ICON のスタッフの方の出迎えを受けました。貸切バスに乗り換え慶州市（Gyeongju）内にある会場（KT&G Group Human Resources Development Institute）に2時間ほどの道のりで到着しました。

私たちの部屋は韓国チームとの相部屋でした（4人部屋）。シャワー・トイレ・給水機・ドライヤー等は完備されていて、一週間ほどの生活には良い環境でした。また、この時に初めて韓国チームのメンバーと対面しました。

この日の夜には、Gyeongju 市内にある遺跡などの観光地を巡るナイトツアーが行われました。参加者間での親睦を深めあうなど、楽しいものでした。ただ、海外からの参加者にとっては到着してすぐに歩き回ったため、疲れている人もいました。

食事ですが、基本的には宿泊会場で行います。バイキング形式となっていて、自分の好きなものを食べることができます。韓国料理がほとんどを占めていて、辛い料理が多いのですが、辛い食べ物もおいしく、日本とは違ったおいしさを味わうことができました。



【8月19日（金）】

この日は、午前中に大会の Opening Ceremony が行われました。会場は、Gyeongju Hwabaek International Convention Center(通称：HICO)でした。ここでは、審査基準や、提出期限などに関する説明がありました。午後は、チームの作業時間となっており、チームでアプリの方向性や詳しい内容を話し合い、進捗状況を報告しあったりしました。また、この時にくじ引きでプレゼンの発表順決めました。



【8月20日（土）～8月22日（月）】

この三日間は、食事をして、作業をして、深夜まで作業をして、寝るといふことの繰り返しでした。

韓国の生徒のアプリ制作が追い付かなかったこともあり、徹夜をしての作業となりました。今回の作品はアプリを用いて学習する仕組みを構築する

作業が主だったため、ほどなくして私たち日本の生徒は、プログラミングに関して、何もすることが

なくなっていました。そのため、私たちはアプリのプロモーションサイト作成を担当することし、引率の先生の力もお借りしながら公開しました。このサイトは、日英韓三か国語に対応しています。

[URL(日本語版)はこちら⇒<http://culang.ninja-web.net/jindex.html>]

また、韓国側の先生がアメリカ人でしたので、言語学習アプリの方向性、英文の校正やプレゼンの練習などを指導してくださりました。

最後の方はプレゼンの準備やリーフレット・プロモーションビデオの作成が終わらず、深夜までの作業が続き大変でしたが、何とか無事にアプリを完成させることができました。



【8月23日(火)】

この日は、審査員を前にしたアプリのプレゼンがありました。会場は前の3日間と異なり HICO でした。私たちのチームのプレゼン順は3番目だったので、午前中にプレゼンをしました。

プレゼンを無事終わらせ、午後に私たちのチーム全員で宿泊地の近くにあるお寺に観光に行きました。

その後、参加者全員でバスに乗り演劇を見に行きました。とても質が高く、非常に興味深いものでした。



【8月24日（水）】

この日の午前中は、UNIST という韓国有数の理科系大学の見学に参加者全員で行きました。最先端の設備が揃っているようで、非常に驚きを感じました。



午後は結果発表と Closing Ceremony が行われました。私たちは2nd Place(2位)を受賞しました。協力して下さった先生方、韓国の生徒、スタッフの方々に感謝申し上げます。





Closing Ceremony が終わり韓国の生徒を見送った後は、他のチームの日本の生徒と先生方全員で Gyeongju 市内の中心部に行き、観光と買い物をしました。

【8月25日(木)】

朝早くに宿泊地を出て、釜山空港から帰国しました。2時間ほどの空の旅でした。



◎チームの概要

チーム L

アプリ名 : Culang (Culture と Language を組み合わせた造語)

メンバー :

韓国側の先生 Mr. Anthony Wilborn (英語や言語学習の観点から様々なアドバイスをいただきました)

韓国側の生徒 Oh Hyunchang (デザインや英語能力の面に長けていて、アプリ制作やプレゼンにおける重要な役割を担いました)

韓国側の生徒 Lee Juan (プログラミング能力が非常に高く、短期間で高品質なアプリを作っていて驚きました)

以上 Korea Science Academy of KAIST より

日本側の生徒 佐藤圭一郎

以上 東京都立小石川中等教育学校 より

日本側の先生 渡部陽仁 先生 (プログラミングやサイトなどの技術面で様々なアドバイスをいただきました)

日本側の生徒 福崎奨

以上 慶應義塾湘南藤沢高等部 より

サポーターとして大会スタッフの Jeong Eugene さんも指導してくださいました。



アプリの概要 : Culang は、先述の通り Culture と Language を組み合わせた造語です。その名の通り文化と言語の学習、交流を目的とした SNS アプリで、言語の翻訳機能も実装しています。Culang は言語学習をしたいと考えている人々に様々な記事を用意し、それを学習者自身で単語や文章全体を翻訳することで単語の知識が付きます。また、投稿機能やコメント機能を付けることで、言語を学びたい人同士でコミュニケーションが取れたり、記事を追加したりすることができます。

プロモーションビデオ・リーフレットの URL : <http://culang.ninja-web.net/jmenu3.html>

◎感想・反省

今回私たちがこの e-ICON 世界大会に参加して痛感したことが、自分の英語力やプレゼン能力、コンテンツ制作力が韓国や他の国の人々と比べて劣っているかもしれないということです。この e-ICON 世界大会は日本人以外の参加者とのコミュニケーションは全て英語なので、やはり英語力がとても必要とされる大会です。今回は何とか自分の言いたいことを相手に伝えることができましたが、高度な意味や繊細なニュアンスをうまく伝えることができなかったことや、文章として成り立っていない、単語だけの会話をしてしまうことが多々ありました。

それ故、これからは英語に対する興味や関心を高く持ち、英語力をより向上させていきたいと思ひます。
又、この大会の主目的であるプログラミングやデザイン能力等についても併せて磨いていきたいと思ひました。